


知ることから始めよう！世界のこと

実践場所	神奈川県	横浜市立東高等学校	実践者	小岩 祥子
対象	高校2年生		時間数	4時間
担当教科	英語	実践教科	英語Ⅱ	
ねらい	①広く世界の実情を知り、自分にできることを考える。 ②多様な価値観を受容し、「違いを受け入れること」を学ぶ。身近な生活でもそれを実践する力を身につけさせる。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 導入編 ✓ JICA の概要説明 ✓ タンザニアの位置確認 ✓ 世界の現状を知る ✓ クラス版100人村作成 		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業編 ✓ アンケート、手紙の作成 ✓ クラス版100人村 完成版披露 ✓ アンケート実施(現地でもほぼ同じもの) ✓ 一人一つタンザニアの生徒へ質問を考える 		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 「行ってきました！」タンザニア編 事前のアンケートをもとに「タンザニアのイメージ」検証 		
	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 「わたしの、あなたの大切なもの」編 ✓ フォトランゲージ、グループワーク ✓ 事前のアンケートをもとに日本タンザニアの「大切なもの」比較 		
成果	「人によって『当たり前』は違う」「生まれ育った環境によって価値観の違いが存在するとわかった」などの感想が見られ、こちらが意図したねらいを一定程度達成することができた。			
課題	今回は「知る」ことから始めたが、知った上で自分に何ができるかを深く考えさせたい。また、経済的に豊かであること＝幸福か、について考えを深めさせるためのアプローチを考えていきたい。「豊かな国に生まれて良かった」「そうでない国はかわいそう」が結論とならない			
備考				

1 時限目 タイトル「導入編」

1 生徒の活動の流れ

- ① タンザニアを世界地図で確認・タンザニアに関する情報提供
…馴染みのないタンザニアの位置をまずは認識させ、
アフリカの「物理的な遠さ」だけでなく「精神的な遠さ」を
解きほぐす第一歩であった。
- ② 三分間で自分の知っている国を紙に書き出す
…地理的に近い国、観光地、北半球に集中していることに
気づく。
- ③ 「世界がもし100人の村だったら」をクラス全員で音読し、
それぞれ自分にあてはまる部分に線をひく。
…「日本の現状＝世界の現状ではない」ことに注目させたいと
いう目的で行った。むしろ、日本はごく限られた一部の国にあてはまることを知り、今後自分たち以外
の現状について目を向けさせたい。
- ④ 「クラス版100人村」作成に向けてアンケート記入
…③に加え、「世界」という壮大なレベルでなくとも、まずは2年6組という小さな社会
の中でも「自分の現状＝他人の現状ではない」ことに気付かせる目的で行った。
「部活に加入している/していない」「バス通学である/ない」などの些細なものを中心に
様々な質問項目に基づきアンケートを行った。この結果をまとめ、次回の授業の教材とした。

この時限のねらい

- ① タンザニアの位置を知る。
- ② 世界の現状を垣間見る。
- ③ 世界に対する自分の認識を知
る。
- ④ 身近な「クラス」という小さな社会
にも多様性が存在することに気づ
く。

2 生徒の活動の成果・反応

- ◇「タンザニア」というなじみのない国に戸惑いや「なぜ行くの？」を素直に表現する生徒が多かった。
- ◇書き出した国がどの生徒も似ている(観光地、スポーツが強い、近隣国)こと、ほとんど認識されない国が圧倒
的に多いことに気づき、そのような国に目を向けさせたいという狙いは一定程度達成できたように思う。
- ◇当然とも言えるが、「日本(自分)はとても恵まれている。日本に生まれて良かった。」という感想もちらほら見ら
れた。国際理解、国際協力に関心を持ってもらうことの結論がこれでいいのだろうか、ということも感じた一時間
であった。自分の現状を垣間みることから始めて、その先にどんなことができるか、自分の役割は何か、という
ことまで考えてもらいたいという新たな目的を得ることができた。

3 使用した教材

<教材1>世界地図

<教材2>「世界がもし100人の村だったら」池田香代子

<教材3>「2年6組版 100人村作成に向けてアンケート用紙(自作プリント)

1 生徒の活動の流れ

- ① 2年6組版「100人村」を全員で読み、クラス内の多様性に気づく。

…他愛のない日常生活の中にも、多様性が存在することに新たな発見をする生徒が多数いた。

- ② アンケート実施→帰国後の授業で還元

＜アンケート内容＞

- 1.あなたが今行ってみたい国は？
- 2.タンザニアはどんなイメージ？
- 3.タンザニアに行ってみたいですか？
- 4.タンザニアに関して知りたいこと
- 5.日本の良いところは？
- 6.反対によくないところは？
- 7.あなたの大切なもののランキング
- 8.あなたにとっての「幸せ」って何ですか？
- 9.あなたの1日の過ごし方は？
- 10.英語の勉強は好きですか？

- ③ タンザニアの学生に一人ひとつ質問を考え、英語で書く。

…渡航中、この用紙をタンザニアの中学校で配布し、質問に回答してもらった。

これにより、生徒同士が「直接のやりとり」をすることで、お互いをより身近に感じてもらいたいという意図で行った。実際、日本人の生徒の中ではこの返事を期待する生徒も多く、一定の成果があったと思われる。「タンザニアの流行は何ですか？」「タンザニアのおすすめの食べ物はなんですか？」「日本について知っていることはありますか？」などの質問が多かった。

2 生徒の活動の成果・反応

◇特に、質問用紙に質問を英語で記入し、同じ用紙に直筆で解答が返ってくることを楽しみにする生徒が多かった。

◇「2年6組版100人村」は他愛のないピックで作成した(バス、電車通学しているかどうか、部活に加入しているか、バイトをしているかなど)が、お互いに知らないことが意外と多かったことに驚いており、「小さな社会の中の多様性」に気づくことに一定の成果があった。

3 使用した教材

＜教材1＞ 2年6組版 世界がもし100人の村だったら(自作プリント)

＜教材2＞ アンケート用紙、質問用紙(自作)

この時限のねらい

帰国後の授業へ向けての素材作り。「東高校2年6組」と「タンザニアの学校」を比較するため。また、タンザニアの生徒に向けて質問を書き、その返事をもらうことでタンザニアの生徒と「つながる」感覚を感じさせる。

3 時限目 タイトル 「行ってきました！タンザニア 編」

1 生徒の活動の流れ

- ① 前回までの授業を思い出す
…Google Earth で再度タンザニアの位置を確認。
より具体的なイメージを描くのに役立ったように感じた。
- ② 前回のアンケートより生徒たちの持つ「タンザニアのイメージ」を確認。 <事前のアンケート結果↓>

Q.タンザニアにはどんなイメージがありますか？

- 1位 暑そう 7人
- 2位 遠すぎてわからない・無回答 6人
- 3位 自然が豊か 5人
- 4位 黒人 4人
- 5位 日本ほど裕福ではない、貧しい 3人
アフリカっぽい 3人
砂漠 3人
- 6位 食料が十分でない 2人
不衛生 2人
あまり発達していない 2人
人があたたかさう 2人

この時限のねらい

事前のアンケートからタンザニアへのイメージを検証し、先入観や偏見を取り除く。また、相違点だけでなく自分たちとの共通点を認識させることで「同じ地球人」としての意識を感じさせたい。

2 生徒の活動の成果・反応

- ◇ 「思っていたイメージと違った」という感想もあれば、「イメージ通りだった」という感想も見られた。例えば、気候面で「暑そう」のイメージが圧倒的だったが、実際に訪れた8月はタンザニアでは涼しい季節にあたり、朝夕は肌寒いほどであった。実際の気温データで検証し、このような小さなところからいかにステレオタイプのイメージにとらわれているか考えるきっかけになったように思う。
- ◇ 写真を見ることで具体的なイメージが湧いたためか、行ってみたい場所はアフリカになりました！のような感想もいくつか見られるようになった。

3 使用した教材

<教材1> Google Earth

<教材2> タンザニアで撮影した写真



幹線道路沿いの動物たち



食材が豊富な市場

<教材3> 日本で行った「タンザニアのイメージは？」アンケート

4 時限目 タイトル「あなたの、わたしのたいせつなもの 編」

1 生徒の活動の流れ

- ① フォトランゲージ、ワールドカフェ(グループワーク)
 - A 1グループ6人に2枚ずつ写真を配布し、「写真をみて気づいたこと」「疑問点」など、すべて模造紙に書き出す。
※ その際「誰かが発言したことは絶対に否定せず、受け入れること」をルールとした。
 - B その後、「何の場面の写真か」を考える。
- ② 「大切なもの」ランキング 日々の比較
 - A 2回目の授業で行ったアンケート結果を事前に集約し、2年6組の大切なものランキング発表。
 - B その後、タンザニアの学生のランキングを考えさせる。

この時限のねらい

- ① グループ内のメンバーの意見を聞くことにより、自分の偏見、先入観に気づく。
- ② 世界の多様な価値観を知ることにより、自分以外の価値観を受容する姿勢を養う。

2 生徒の活動の成果・反応

- ◇ ①の活動では、話し合い中に互いの発想を楽しんでいる様子が見られた。また、「何の写真か」に対する解答を聞き、意外な解答に驚く生徒が多かった。
- ◇ ②の活動では、自分たちのランキングに似た解答が目立った。全班とも「家族」を1位に予想したが、実際の解答では家族は全くランクインしなかったことに、こちらもやはり驚く生徒が多数であった。
- ◇ 「タンザニアという一つの国だけをとりてもこれだけの違いがあるので、もっとほかの国も調べたら違いが見つかって楽しそう」など、『違い』を楽しむ姿勢を持つ生徒が多かった。

3 使用した教材

<教材1>タンザニアで撮影した写真



写真1:学校の購買



写真2: 学校でのコマ

<教材2>タンザニアで行ったアンケート

Koa nichi wa! We are from Japan. We would like to know a lot about you. Please answer questions below as you can. It would be helpful if you could answer them in English but Swahili is also fine.

[General Questions]

1. What kind of impression do you have about Japan? / **Aina gani ya bisia una kubutu Japan?**
2. How many meals did you have yesterday? And, what were they? / **Jinsi ya milo wengi hawakuwa una jana? Na, ni yapi?**

[About yourself]

3. When do you feel happy? / **Wakati unajisikia furaha?**
4. What is most important to you? / **Nini ni muhimu kwako?**
5. When was the happiest moment of your life so far? / **Wakati ilikuwa wakati furaha ya maisha yako hadi sasa?**
6. What is your favorite pastime? / **Kile ni gumbao yako lahorite?**
7. What do you want to be when you grow up? / **Iloataka nini kuwa wakati kukua up?**

[About school]

8. What class do you like at school? / **Kile darasa gani wewe kama shuleni?**
9. For what reason do you study? / **Kuwa sababu gani wewe kujifunza?**
10. What do you like most about school? / **Je wewe kama zaidi kufusu shule?**

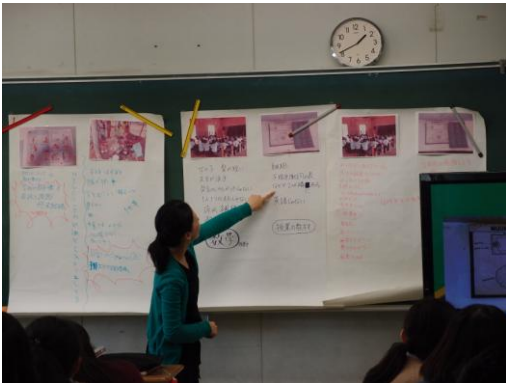
■ 全体を通して

1 授業の様子

<写真1>フォトランゲージ:話し合いのようす



<写真2> たくさんの意見が出ました。



2 参考文献・資料

1) 「世界がもし100人の村だったら」池田香代子

3 今後の課題

今回、「担任がタンザニアに行く」ということが、開発教育や国際協力について考えたことのほとんどない生徒たちにとって唐突な出来事となるであろうことは容易に想定でき、自分自身も最初の授業では少し緊張感を覚えた。「知る」ことなくしてはその先にあるであろう「(行動)する」はありえないと考えたため、タンザニアをいかに生徒たち自身が「自分」につなげていけるかを一番のテーマに考え、その点について成果はあったように感じている。ほんの少しでもこの授業を将来生徒たちが思い出し、なんらかの形で開発への興味がわき上がることを切に願う。しかしながら、最初の授業で感じた、「日本人で恵まれている、日本人で良かった」的な感想で終わらず、日本人であるからこそ私たちができることは何かを感じさせたいという思いを実現させるには、今後も継続して様々な形で生徒たちに開発に携わる機会を提供していく必要があると感じている。

以上